

矢祭時間

やまつり

vol.2

ふくしま矢祭町

農業法人会情報誌



From small town to the world

小さな町から世界へ

福島県矢祭町の農業が海外へ向け動き出した。「矢祭時間」第2号では、農産物の輸出にまつわる取り組みを紹介したい。

世界に花をつなぐ



グリーンルーツ
greenroots



海外で培ったノウハウが いきてきた

「花にもファッショント同じように流行があるんですよ」と教えてくれたのは、金澤大樹さん。2013年に仲間と(株)グリーンルーツを立ち上げた。花の流行はヨーロッパとアメリカにある世界で有力な4社が決めているようなもので、ここで扱う花などが後に町中で目にする事になるそうだ。「逆にその大きな流れにはまらないニッチな部分を狙っていきたい。」そう話す大樹さんは、14才の時に将来は植物に関わる仕事に就こうと考えていた。両親が花や種苗の生産者であり、物心ついた頃から植物に囲まれた生活を送っていたので、それは自然なことだったかもしれない。花産業は花を育てて売るだけでなく今後はビジネスに移行していくと予想。いかにして利益を出していくか

アイデアやノウハウを得るために大学では経営やマーケティングを学んだ。また当時、海外に花の種苗を輸出入することは一個人農家が出来ることではなく、得体の知れないものだった。どうやったら輸出入できるようになるのか、どんな知識や経験を得る必要があるのかを考え実行するため、卒業後は海外へ渡った。

始めの半年はワーキングホリデーを使いニュージーランドで花畠やワイン畠で働いた。次にオランダへ移住。なぜオランダかというと、ヨーロッパで園芸の一番大きな市場がドイツであり、オランダはドイツの隣国なので輸出園芸ビジネスが盛んだったからだ。約半年を蘭やユリの生産者のところで流通を学び、その後商社に移り約2年、球根の輸出や日本からの種の輸入に携わり輸出入のノウハウを得ることが出来た。この海外での武者修行のような3年間は、ほぼ無給だったと聞き驚いた。どうしても先立つものが

ないと動けないので、この期間は福島県の支援プロジェクトから資金を借りたという。矢祭町には2008年に戻り、父親の(有)矢祭園芸に入社し海外での経験をいかすことになる。『若いころの苦労は買ってでもせよ』と昔からよく言われるが、まさにこれを実行し海外生活の苦労が役に立っていると言える。

(株)グリーンルーツでは事業が多岐に渡るが、最も力を入れているのは花を売る仕組みを考えることだ。例えばカーネーションやクレマチスの品種権利を獲得し、その権利を販売している。また2014年に、ジェトロ(日本貿易振興機構)と一緒に参加したドイツでのIPMという園芸国際見本市で、シクラメンのクローネを試験管で増やし育てる品種のパテントを販売した。オランダの製品卸業者と育種販売業者と自社を含めた3社で協力し、今までにない成果を上げることが出来た。

【FUKUSHIMA】を ポジティブに変換したい

福島県の農産業は、2011年の震災と原発事故の影響を何かしら受けている。“花”も例にもれず、風評被害がしばらく続いた。その払拭のために消費者イベントを立ち上げたりとチャレンジしていた。そんな時に、前出のドイツの園芸国際見本市で「花ならいくらでも買うわ」という言葉をヨーロッパの方々からいただいた。福島県産の農産物で唯一輸出規制がかかっていないのが“切り花”と知り“花”をきっかけに【FUKUSHIMA】という言葉をネガティブなイメージからポジティブに変えることが出来ないだろうか?と考えたそうだ。「福島県から世界へ花をつなげ、どんな状況でも幸せを感じてもらえるよう努力したい。」

今後の展望を伺うと、温和な雰囲気を持ちながら

種苗資材の輸出入販売など

金澤大樹さん
たいき

無農薬の菜かぼちゃも生産販売している。園芸ディスプレイにも珍しがられ、食用になりスープにしても生でサラダにしてもいただける。



株式会社 グリーンルーツ
〒963-5113
福島県東白川郡矢祭町大字下関河内字下古宿8
📞 0247-47-2201 📞 0247-47-2534
✉ t.kanazawa@greenroots.jp
🌐 http://greenroots.jp/
🌐 https://www.facebook.com/green.roots/



トルコ・アンタルヤ国際園芸博覧会、会場入口



植物で覆われた動物たちのオブジェ。博覧会の屋外会場にて


グリーンルーツ
greenroots

EXPO
2016
ANTALYA
国際園芸博覧会2016
トルコ・アンタルヤ

2016.4.23~10.30

金澤大樹さんは多くの縁が結び、トルコのアンタルヤで2016年4月から10月に開催された【トルコ国際園芸博覧会】の政府出展の運営委員に選出された。2015年8月から運営に多方面で関わった。

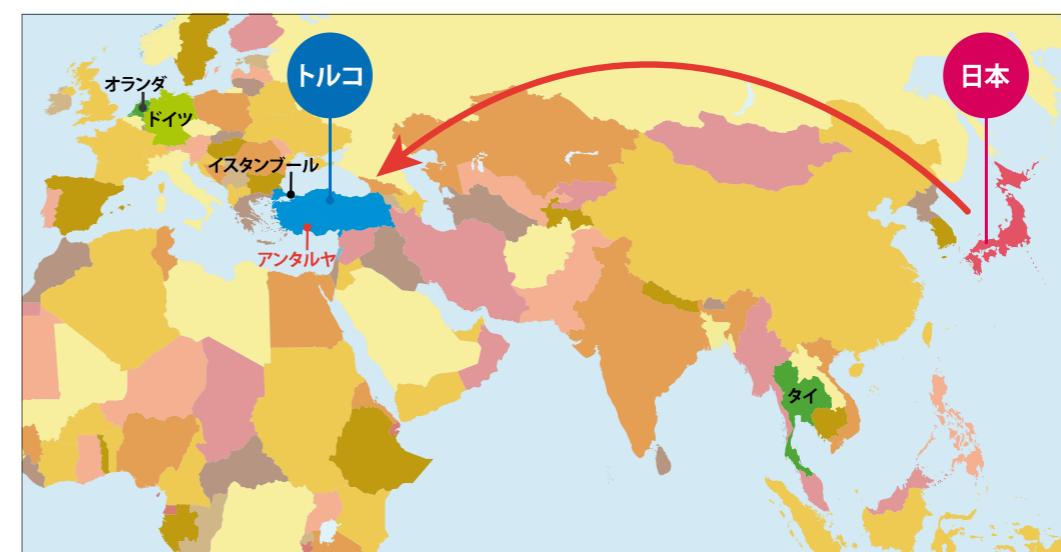
トルコではテロが相次ぎ、記憶に新しい今年6月には空港で大きなテロが発生。日本国としても出展が危ぶまれる状況に一時なった。大樹さんのトルコ滞在の日程も変更を余技なくされたが、9月5日から10日かけて行われたトルコ共和国主催のジャパンデーに参加することが出来た。

今回の【トルコ国際園芸博覧会】参加の意義は、東北の震災からの復活をアピールすること、トルコと日本の長年の友好関係アピール、日本産花きの中東地域への輸出を狙っての事でした。トルコは切り花の多くをヨーロッパから輸入しており、価格が多少高くても良い商品には、きちんと対価を払ってくれる傾向があり、ロシアやアラブ圏への輸出のハブ（中継地）となりえると期待されている。

そういう意味で、トルコに福島県産のトルコギキョウや種苗等の売り込みをかけ、ビジネスをしていく場合の問題点や、日本からの輸送や供給体制などを調査し花きの輸出が実現するよう、今後も動いていくそうだ。



上 トルコ、アンタルヤ国際園芸博覧会【ジャパンデー】での日本ブースのメイン
スタンド 現地見学者の子供も記念撮影 / 下左 写真に出品した福島県産の
珍しい色のカーネーション / 下右 写真の左側がメインブースを手掛けた華道家の
の假屋崎省吾さん 写真右が金澤大樹さん



トルコの農場見学 現地の生産者さん

農産物の輸出 プロジェクト

海外へ矢祭町産農産物を輸出できないか？

矢祭町農業法人会は2015年に活動を始め、2016年にタイの首都バンコクでのいちご、トマト販売を実現させた。

きっかけは(有)でんぱたの鈴木正美社長のもとに届いた東北大学の学生からのメールだった。内容は、福島県の復興のために何か力になりたく、風評被害の払拭のため「矢祭米」をバンコクでPRしたいといううれしい申し出だった。

東北大学ではPBLプログラムという“自分達が企画して自分達で実行する”取り組みがあり、今回5名の学生がチームを組み企画を練った上でのことだった。国内へのPRはすでに取り組み事例があることから、海外でPRすることで新しい市場開拓につながるのではないかと考えたという。タイは東南アジアの中でも比較的日本に近く、中国や日本の企業の進出もあり、近年飛躍的な経済成長を遂げており富裕層が多い。またタイは親日家が多いことで知られていて日本産の商品は高品質だと認められている。ここで福島県産の農産物をアピール

しようと、実際に学生達は現地に足を運び「矢祭米」の試食会を開き市場調査をした。帰国後彼らは分析結果を報告書にまとめ、バンコクへの輸出に協力を得られる人物の紹介もしてくれた。バンコクには約3万人もの日本人がおり、これから市場として強い魅力を感じた。東北大学の学生達に道を開いてもらったことでバンコクで継続的に福島県産の農産物を販売出来ないかと模索が始まった。その後、県の補助事業を受けて矢祭町農業法人会の会員で2016年に2回（2月・11月）バンコクへ赴いた。



[そらの社] いちご販売



[甚右衛門] トマト販売

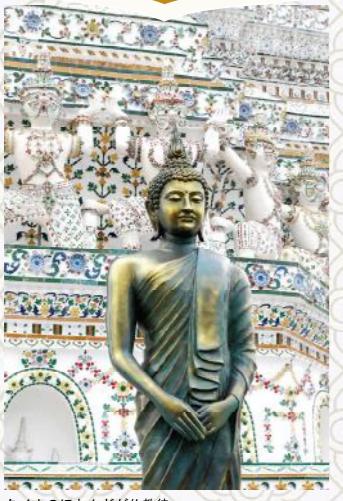
2016年11月、2回目のバンコクでは【でんぱた】の矢祭米と矢祭米せんべい、米菓の試食会を行った。場所は駅への連絡ビルのオープンスペースで、タイの女性スタッフの手を借りて矢祭米のPRをした。タイは自国でタイ米の生産しているため国産米を守る施策を取っており、日本から米を輸出するには輸出量の制限や関税の関係で難易度が非常に高い。そのため今回は矢祭米の販売ではなく、PRと試食会という形をとった。試食会でタイの人々の好感度を得て、福島県の米である矢祭米を海外に販売したいという思いを強くした。



[でんぱた] 矢祭米 試食会

タイ王国 バンコクレポート

2016.11.



タイ人のほとんどが仏教徒



タイの首都、バンコク 首都圏で人口1,000万人以上といわれる世界都市

矢祭米のアピールのため矢祭町農業法人会の会員4名がタイの首都バンコクへ赴いた。

(2016年11月18日～11月21日)



矢祭町農産物輸出のきっかけとなった東北大学プロジェクトメンバーの学生5名。後列左から高山育実さん、澤井剛さん、笛川一平さん、土橋将史さん、前列左の菅野将紀さんと(有)でんぱたの鈴木正美さん



東京からバンコクまで飛行機で約7時間



2016年2月に現地で配布したタイ語のパンフレット



2016年11月には、タイ国王逝去のため喪に服していた現地に合わせた色合いのパンフレットを配布した。

バンコク出張組



今回も良い出会いがありました。



バンコクでのトマト販売、継続していきます！

有限会社 でんぱた
鈴木正美さん



情報収集や分析など頑張りました！

芦田健一さん



現地での英語通訳を任せされました。

岡本透さん



矢祭町農岡出身 菊池美紀さん

タイ・バンコクで、冷凍野菜の生産・輸出を手掛ける企業で働いております。先日バンコクにて、矢祭町農業法人会の皆様とお会いしある機会があったのですが、農業にかける思いや矢祭町の農業の未来について、目をキラキラさせながら語られている姿がとても印象的でした。また“矢祭農産物を海外へ”と尽力されているお姿にも刺激を受けました。皆様とタイの架け橋となるべく、微力ながらお手伝いできたらと思っております。近い将来、タイで矢祭産の野菜やお米を目にすることを心より楽しみにしております。



今回の出張で一番の収穫は、矢祭米を輸出版賣するためにバンコクで受け手となってくれる貿易商社との足固めが出来たことだ。すでに矢祭産いちごとトマトはバンコクでの販売を実現させているが、矢祭米の販売は出来ずにいる。と言うのもタイへの米の輸出には国の認可や輸出入枠の高いハードルがあるからだ。まず米を輸出するには、タイで輸入を受ける法人資格を取得した企業が必要で、資格を申請するには条件が多い。法人資格が取れても、日本米の輸出入枠があり量の制限がある。許された範囲の中では大手商社などの大口取引が多くを占めているため、自由な量を流通させる事ができない。なかなか厳しい高い壁だが、一緒に取り組んでくれるバンコクの貿易商社の社長夫妻は福島県出身という嬉しい共通点もあり、地道に取り組んでいくというビジョンが一致した。日本で耕作面積が一番多いのが“米”であり、東北の米は特に美味しいと自負している。米の輸出を大きな商社などに頼るばかりではなく、自らの力で海外における販売を開拓して、矢祭米の美味しさを広く世界中の人に知ってもらいたい。



矢祭米の試食会にて。笑顔でおにぎりを振舞う
タイの女性スタッフ



試食会と商談のひとこま



試食会に立ち寄った現地の方

甚右衛門



彩りの良い多品種のトマトを主として、各種の野菜を生産している甚右衛門では、食農体験ができる。まずは野菜の収穫を体験。子供たちもハウス内を回り、おっかなびっくり大きなナスやトマトを自分の手で収穫する。次はピザ焼き体験だ。ピザハウスでは、生地を伸ばし甚右衛門特製トマトソースを塗り、収穫した新鮮な野菜と、チーズをたっぷり。薪で熱くなったピザ窯で、あつとう間に美味しいピザの出来上がり！家族連れ、またはグループで参加しても楽しい時間となる。



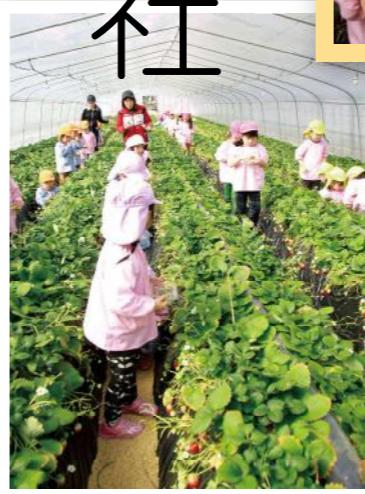
甚右衛門の高信祐介さん（左）と高信甚一郎さん（右）
野菜収穫体験、ピザ焼き体験、2つを合わせたプランもある。開催日は問い合わせの上、事前に予約が必要。

農業生産法人・有限会社 甚右衛門
〒963-5118
福島県東白川郡矢祭町大字東館字田川1-1
📞 0247-46-2234 ☎ 0247-46-2240
✉️ jin1@lime.plala.or.jp
✉️ jinemon831.wix.com/jinemon
🌐 https://ja-jp.facebook.com/jinemon831

矢祭町農業法人会の取り組み

食農体験

そらの社



そらの社では、毎年2月に〈やまつりこども園〉の子供たちをいちご摘みに招待しており、今年で17年目となった。
いちごハウスの畠の合間を歩いて、子供たちは赤く色付いたいちごを見つけて自分の手で摘み取り口に運ぶ。最初はぎこちない動きだったがすぐに慣れて次々といちごをほお張り、みんな笑顔になっていく。「甘い！美味しい！」と大好きないちごをいっぱい食べられて満足気だ。
矢祭町への社会貢献のひとつとして、今後も続けていく。

農業生産法人・有限会社 そらの社
〒963-5118
福島県東白川郡矢祭町大字東館字蔵屋敷134-3
📞 0247-34-1388 ☎ 0247-34-1388
✉️ sorano@onyx.dti.ne.jp
🌐 http://soranoha.hp.gogo.jp

いちご摘み

でんぱた

高島屋催事



高島屋玉川店の催事「ふくしまプライド。」のトークショーにて
福島県 内堀知事（一番左）と出店者代表の1人（有）でんぱた鈴木正美
さん（右から2人目）



2016年6月の1週間、高島屋玉川店の催事に初出店。「ふくしまプライド。」と銘打って福島県産の農産物や加工品を特集し、既存の店舗とのコラボレーションも行った。でんぱたの矢祭米を使った天丼やお弁当を販売し、でんぱたのブルーベリーも和菓子店の若匠たちのアイデアで和菓子となって登場。ブルーベリーのジェラートは酸味が効いていて濃厚で美味しいと大好評だった。
9月末からは、期間限定で高島屋オンラインショップ【NIPPONものがたり】に矢祭米が掲載され、精米にこだわった美味しいコシヒカリとして紹介された。
11月には再び、高島屋柏店内グロサリー売場の催事に出店し、矢祭米の試食を振舞うことが出来た。

農業法人・有限会社 でんぱた
〒963-5118
福島県東白川郡矢祭町大字東館字
藏屋敷12-1
📞 0247-46-2571 ☎ 0247-34-1425
✉️ agr-i-net@denpata.com
🌐 http://www.denpata.com
🌐 https://ja-jp.facebook.com/denpata



矢祭町へのアクセス



東北新幹線

東京駅～新白河駅 約85分
仙台駅～新白河駅 約60分
新白河駅から車で約70分

JR水郡線

水戸駅～東館駅 約105分
郡山駅～東館駅 約90分

常磐自動車道

那珂インターチェンジから
国道349号線 約90分
国道118号線 約120分

東北自動車道

白河インターチェンジから
国道289号～国道118号 約60分



矢祭時間 vol.2